

○「ロクハモデル」の概要

感染の未然防止対策

- 入場者全員の検温
- 入場者全員の健康状態自己申告と個人情報の収集
- 健康状態など記入時に「もしサポ滋賀」QRコード付き
ボードを利用して登録促進

三密を防ぐための対策

- 入場者数を最大800名に制限
- 利用ピークの予想日には前売券を販売して券売機への
待ち行列を短縮
- 前売券購入者は別に設けた優先入場口を利用し、入場口
での密を回避
- 屋外に通気性の良い仮設更衣室を設けて更衣室内での
密を回避
- 更衣室内のロッカーを屋外へ移動し更衣室内での密を
回避

感染拡大予防の対策

- 開場前、閉場後にロッカー内外、トイレ、床、屋内・屋外

プール手すりなど全て清掃と消毒

- 午前・午後の完全2部入替制として、休憩時間中に全てを清掃と消毒
- 通常入場口、前売券優先入場口に仮設手洗い場を設置して石鹼水による手洗いを励行
- 券売機ボタン、自販機ボタン、受付カウンター、ドアノブなど頻繁にアルコール消毒
- 大型送風機を更衣室、仮設更衣室、出入口等に設置して十分な換気を確保
- 受付カウンターに飛沫感染防止シールドを設置して入場券授受

新型コロナウイルス対策とプール運営について

新型コロナウイルス対策として、令和 2 年度の「ロクハモデル」を軸として令和 3 年度の対策を実施します。

なお、最新の情報や施設利用者の要望、受入環境を踏まえて、必要な見直しを都度していくこととします。

(1) 具体的な感染防止対策

(ア) 留意すべき基本原則

- 従業員と施設利用者及び施設利用者同士の接触を出来るだけ避け、対人距離を確保(2m(最低 1m))
- 感染防止のための施設利用者の整理。(入退場時や施設利用時に密にならないように注意喚起)
- ロビー、更衣室、ドアノブ等施設内の定期的な消毒。
- 更衣室(館内)の換気。
- 入口及び施設内の手指用消毒液の設置。
- マスクの着用。(熱中症対策が必要。従業員及び施設利用者に対する周知)
- 施設利用者への定期的な手洗い、消毒の要請。
- 従業員の体温測定、健康チェック。

- 来場者の検温、健康チェック。

(イ) 密を避ける方策

- 定員の設定(午前・午後、各 800 名)
- プールサイド採暖室の閉鎖
- 営業時間の変更 (午前・午後の完全入れ替え制)

午前(9:30~12:30 遊泳は 12:00 まで)

午後(14:00~17:00 遊泳は 16:30 まで)

(2) エリア毎の留意点

(ア) 入館時(入口付近)

- 発熱、咳、倦怠感等の症状のある人は申し出るよう呼びかけ。(検温の実施、利用中止を促す)
- 「もしサポ滋賀」への登録依頼。
- 来場者への検温、体調チェックシートの記入依頼。
- 入口付近に簡易手洗い場を設置。手洗いの奨励。
- 入口付近に手指用消毒液の設置。入館の際に消毒を依頼し、消毒の徹底。
- 間隔を空けた待機位置の表示など利用者同士の距離を保つ。注意喚起。

- 受付窓口のビニールカーテン等で飛沫感染の防止。

(イ) 更衣室

- ロッカーを簡易更衣室(芝生広場に設置)プールサイド、廊下等に移動。(密の回避、更衣時間の短縮)
- 定期的なロッカー清拭消毒。
- 換気扇を常時使用。換気用の窓を開ける等換気に配慮する。
- 大型換気扇の設置(男女各2台)
- タオル等の共用をしないように注意喚起(ポスター掲示等)
- なるべくロッカーを使用しないように事前告知(来場前の水着着用、プールサイドでの巻きタオル着替え等)
- 芝生広場に簡易テント更衣室を設置
- CO₂チェッカーを使用して換気状態を確認

(ウ) プール内

- プール内設備、備品を清拭消毒。
- プール水の残留塩素を1.0ppmに近い数値を保つ様に配慮。(1時間毎の塩素測定。混雑時は測定回数増)

- 利用者同士が密にならないように注意喚起。

(エ) 従業員

- 一度に休憩する人数を減らし、対面での食事等を避ける。
- 共有する物品(机、椅子等)は定期的に消毒する。
- 休憩場所へ移動する際には手指消毒を実施。
- ユニフォームや衣類は小まめに洗濯する。
- 監視備品(メガホン、ホイッスル等)は定期的に消毒する。
- 新型コロナウイルスの正しい知識の教育。
- ごみ回収時、食べ残し、飲み残し、痰、鼻水等に触らない。

(使い捨て手袋使用)